

# シリーズ多面的機能支払 熊野・御浜・紀宝

～私たちの思い、そして伝える100年先へ～

たどおみぞ

Vol.16 田戸大溝組合(熊野市神川地区)の軌跡



「美しい里山を守り、次の世代へつなぐ」という多面的機能支払交付金を活用し、故郷の暮らしを守る活動組織の多様な取り組みは、100年先の地域での暮らしへとつなげるための足跡となっている。本誌では、活動組織の地域に対する思い、今後の展望についてインタビューするシリーズ企画。今回は、熊野市神川地区で活動する「田戸大溝組合」を紹介する。

神川地区は、熊野市中心部から県道34号を七色ダム方面に車で30分ほど走らせると見えてくる集落だ。

木々に囲まれた山道を抜けると、集落と綺麗に手入れされている田んぼが広がる農村風景が目の前に広がった。

集落には、至る所にソメイヨシノが植えられており、春には集落一面ピンク色に染まる風景が見られると思うと、心がワクワクした。

今回は、地域住民の中心となり、積極的に連携し活動している「田戸大溝組合」の代表の田野さんにお話を伺った。



【桜まつり(桜覧会)の様子】

「桜の木が集落に多く見られ、春が待ち遠しいですね。」

田野「毎年春になると、旧神川上中学校で、桜まつり「桜覧会」が開催され、多くの方が神川に訪れます。」

また、ここは那智黒石の産地として有名でもあるため、興味を持って訪れる方もいます。昔から、神川を訪れる人に豊かな農村風景を見てもらい、気持ちよく過ごしてもらえようように、集落に住む人が一体となり、農村風景を守っていくという意識が強いのもかもしれません。

「組織について教えてください。」

田野「今年で設立して2年目になります。構成員は約13名おり、年齢構成は30代〜80代と幅広く活動しています。30代の方は、親から田んぼを受け継いで農業を行っており、まだ農業を始めて間もないため、

地域の皆で見守りながら指導をしています。

若い力は勢いがあり、どんなことを行うにしても頼りになるので、高齢化が進むなかで、このような若い方がいてくれて、とても助かっています。

「活動を始めて2年になりましたが、活動は慣れてきましたか。」

田野「活動については、元々行ってきた草刈り、水路の泥上げ等の農家として当たり前のことを、今まで通りみんなでやっているだけです。年に2、3回に分けて作業を行っています。水路については、谷から取水しているため、約3キロもの長



【インタビューの様子】

しかし、獣害柵を設置しても少し隙間を見つけて動物が入ってきています。設置する前と比べると被害は



【草刈り作業写真】

「集落全体が山に囲まれているですが、農地では何か工夫はされていますか。」

田野「全面が山に囲まれており、獣害がひどい状況なため、活動面積全体を獣害柵で囲っています。国の事業において獣害柵を設置し、地域一体で補修作業を行っています。」

距離であり、作業時間はとてもかかりますが手分けし協力しながら行っています。今まで自費で行ってきた活動に対して、交付金を活用できるので、とてもありがたく思います。今後とも様々なことに対して、地域の農地が維持できるように、交付金を活用していきたいと考えています。

大きく減少したので嬉しいですが、被害軽減のためにも補修を工夫していかなければいけないと思います。

「多面的組織を設立し、地域にどのような影響がありましたか。」

田野「組織を設立することで、行政や様々な団体と連携しやすくなりました。行政からも情報が入りやすくなり、今まで知らなかった制度等も活用することができています。また、神川地区では交付金の活用に合わせて、「歩等米(ぶとうまい)」(他地区でいう「水利権」)制度を廃止しました。組織として一体となり、地域の農地を守るという強い結束力が生まれ、活動に対する協力意識が今までより強くなったと感じます。」

「今後の目標について教えてください。」

田野「組織を法人化していきたいです。人口減少が進むなか、個人ではなく、法人として農地を保有していれば、農地を維持し続けることができます。また、移住者等が農業をしたいと考え訪れる際も、安心して参画してもらいたいからです。」

また、若い力はこれから大きな力になるので、協力しながら田戸の風景を維持していきたいです。

地域で協力し合い、神川の豊かな風景を継承



代表 田野 栄一 さん

■取材を終えて

取材をするなかで、多面的新たな組織が生まれたことをきっかけに神川地区はより強い協力体制が生まれ、地域住民が前向きに活動しているところだと感じた。

「何も言わなくても草刈りをしてくれている」、「地域を良くしよう」という意識が自然と芽生えている」と伺い、それぞれが刺激し合うことが、地域が良い方向に動く原動力となっている。

また、これからの神川地区についても具体的に考えているため、今後も地域一体で意識を共有し、この綺麗な農村風景が今後も維持され続けていくだろう。今後の活動にも期待したい。



組織名	組織設立年	活動面積	活動メニュー
田戸大溝組合	令和5年	342a(田)	農地維持支払 資源向上支払(共同) 資源向上支払(長寿化)

取材:三重県熊野農林事務所 西崎、橋本 熊野市役所 橋本 御浜町役場 楠、大谷(令和7年1月)  
問い合わせ先:熊野農林事務所 農村基盤室 農村計画課 (0597-89-6128)

